

# ツネログ

2026年3月号

#19

皆さん、こんにちは。

JFAは「JFA2005年宣言」において、2050年までにFIFAワールドカップを日本で開催し、優勝することを記しています。そのためには国際大会を開催して経験を積んでおく必要があり、アジアサッカー連盟(AFC)に対し、AFCアジアカップ2035の開催に関心があることを示しています。このことは2月12日の理事会でも報告しました。

AFCの国際大会はAFCチャンピオンズリーグ Elite ファイナルズを含め、現状はカタール、サウジアラビアといった西アジアで多く開催されています。AFCとしても「西」と「東」のバランスについては課題意識を持っていて、われわれとしてはもちろん、国をはじめ関係各所との調整は必要になってくるものの、日本が開催できるチャンスがあればAFCアジアカップ2035以外についてもその都度検討していきたいと考えています。たとえばもしAFCチャンピオンズリーグ Elite ファイナルズを日本に持ってくることであれば、出場する日本のクラブにとって大きなメリットになるはずです。

国際大会の開催実績を積み上げていくことは、言うまでもなく、サッカー界において日本の立ち位置を上げることにつながっていきます。「日本で国際大会の開催を」の機運を醸成していければと思っています。

この『ツネログ』ではさまざまな関係者との対談を掲載していますが、19回目となった今回“マンマーク”したのが、なでしこジャパン(日本女子代表)の守護神としてFIFA女子ワールドカップ ドイツ2011の優勝を経験した海堀あゆみさんです。現在はWEリーグ理事、なでしこリーグ理事長を務めていて、女子サッカーの歴史と現状を知る海堀さんの言葉にはいろいろと考えさせられました。

重点3領域の一つである女子サッカーを盛り上げていくには、まずもって多くの方に見てもらい、その魅力を知ってもらいたい。そのためにはどのようにプロモーションしていくか、議論を深め、動き出していかなければなりません。

今年度の天皇杯(全日本サッカー選手権大会)決勝が6年ぶりに元日開催となりましたが、近い将来、皇后杯(全日本女子サッカー選手権大会)決勝との「ダブルヘッダー」を検討していくこともその一つです。また、47都道府県から代表校が出るようになった全日本高等学校女子サッカー選手権大会の「見せ方」についても、もっと広く深く認知してもらえるようなアクションを起こしていきたいという思いがあります。課題となっているU-15年代の登録数を伸ばしていくためにも、ここはマストになってくるのではないのでしょうか。

あのワールドカップの優勝によって女子サッカーの環境が「劇的に変わった」という海堀さんの経験談がとても印象的でした。

国際大会の招致は女子についても同様で、2039年以降のFIFA女子ワールドカップ招致を継続して目指していきます。強い代表チームをつくり、環境を整えながら女子サッカーを根づかせることで日本のプレゼンスを高めていく。その思いをあらためて強くしています。

公益財団法人日本サッカー協会 会長

宮市 恒靖



# 会長の活動報告

2026年1月16日～2月15日(抜粋版)

1/16(金)

## アンパティサッカー インターナショナルチャレンジカップ-東京2026 (駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場)



スピーディーな展開と迫力あるプレーに、時間を忘れて引き込まれました。選手たちの集中力と闘志が生み出す緊張感は圧巻です。多くの皆さんにぜひ一度、スタジアムで体感してほしいと強く感じました。

1/26(月)

## JFA成長戦略キックオフミーティング(blue-ing!)



現在策定している成長戦略について、JFAの全職員と共有する機会を持ちました。47都道府県サッカー協会(FA)や関連団体の皆さまとも対話と挑戦を重ねながら、日本サッカーの次の時代をともに切り拓いていきます。

1/28(水)

## WEリーグ理事会(JFAハウス)

1/31(土)

## 2026 Jリーグプレシーズンマッチ 第30回ちばぎんカップ(三協フロンテア柏スタジアム)



県FAとJクラブ、そして地元企業が一体となって積み重ねてきた歴史と熱量を感じました。プレシーズンとは思えぬ真剣勝負に、新シーズンへの期待が一層高まりました。

1/18(日)

## コカ・コーラFIFAワールドカップトロフィーツアー (東京都内)



ブラジル代表として3度のワールドカップに出場したジウベルト・シウバ氏とトロフィーツアーに参加。世界最高峰の舞台を象徴するトロフィーを前に、SAMURAI BLUE(日本代表)が掲げる未来を思い描き、闘志が一層高まりました。

1/21(水)

## WEリーグ実行委員会(JFAハウス)

2/2(月)

## 2026年度Proライセンスコーチ養成講習会(オンライン)

1/24(土)

## AFC競技会委員会(サウジアラビア/ジッダ)



ユース年代競技会の構造改革、特にU-17・U-20の大会構造改革について協議。アジア内での競技レベル階層化を認識しつつ、「競争力強化」と「育成機会確保」を両立し、中長期的にトップ層の国際競争力向上を狙う方針を確認しました。

## AFC U23アジアカップサウジアラビア2026 決勝 (サウジアラビア/ジッダ)



U-21日本代表が、史上初の大会連覇を果たしてくれました。ロサンゼルスオリンピックの出場枠は3から2へ減り厳しくなりますが、予選を兼ねる2年後の大会でも優勝し、オリンピック出場を決めてほしいと思います。

2/10(火)

## 本清耕造(ほんせい-こうそう)駐メキシコ特命全権大使 来局



FIFAワールドカップ2026に向けての取り組みをはじめ、昨年のFIFA U-17ワールドカップカタール2025におけるU-17メキシコ代表との交流について、意見交換を行いました。

2/12(木)

## JFA理事会(JFAハウス)



# 理事会トピックス

2026年度第2回理事会が2月12日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

## 報告事項

### 倫理・コンプライアンス 改善策/再発防止策

1月15日の2026年度第1回理事会で提出された JFA倫理・コンプライアンスタスクフォースの答申書を受け、JFA事務局により、今後の実行フェーズに向けた検討・調整状況の経過が報告されました。

### 新たに2人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要な「Proライセンス」について、関西福祉大学サッカー部監督の中田洋平さんと北海道コンサドーレ札幌ヘッドコーチの菊地直哉さんが、新たに同ライセンスを取得しました。これで2025年度に受講した20人のうち14人が認定されました。

# Information

## 2026/27シーズンプロフェッショナルレフェリーは27人

2月1日付で新たに主審の須谷雄三氏、先立圭吾氏、椎野大地氏、副審の坂本晋悟氏、長谷川雅氏とプロフェッショナルレフェリー契約を締結することとなりました。2026/27シーズンのプロフェッショナルレフェリーは上記5人を含め、主審19人、副審8人となります。※1/16発表

## 「JFA アディダス U-12 DREAM ROAD」スペイン遠征が決定

JFAとアディダス ジャパン株式会社は、U-12 年代の選手を対象に「JFA アディダス U-12 DREAM ROAD」スペイン遠征を行います。これは成長著しい育成年代の選手を海外クラブへ短期留学させ、ハイレベルな経験を積ませることで、世界基準の選手を育成しようとする取り組みです。U-12年代の選手を対象とする海外遠征は昨年に続き2回目、今回は、2025年12月に鹿児島で開催されたJFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会で活躍した選抜メンバーでチームを編成。海外のチームとトレーニングマッチを行うほか、バルセロナで開催される「International Carnival Cup」に出場します。※1/27発表

## JFAとコールマンがJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結。「JFA×コールマン キッズフェスティバル」を開催

JFAは、ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社コールマン事業部とJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結しました。本契約により、コールマンのアウトドア用品を活用して、主にJFAキッズフェスティバルやJFAグリーンプロジェクト芝生モデル事業の現場などで暑熱対策に取り組み、選手、指導者、審判員、観客などサッカーファミリーが安全かつ快適にサッカーを楽しめる環境を広げていきます。なお、キックオフイベントとして3月28日、「JFA×コールマン キッズフェスティバル」を高円宮記念JFA夢フィールド(千葉県)で開催します。イベントでは未就学児～小学3年生を対象とするサッカー教室をはじめ、コールマンのさまざまなギアを使ったアウトドア体験や焚き火でのマシュマロ焼きを実施。4月以降、全国のJFAサッカーキッズフェスティバルの会場でも同様のイベントを順次開催する予定です。※1/28発表

## 企業版ふるさと納税を活用した「全国サッカー応援プロジェクト」特設サイトをオープン

JFAとJリーグは、日本サッカーを応援する自治体連盟と連携し、1月30日、株式会社JTBの企業版ふるさと納税サイト「ふるさとコネクト(ふるコネ)」内に特設サイト「全国サッカー応援プロジェクト」を開設します。本サイトは自治体が取り組むサッカー関連プロジェクトを集約したプラットフォームで、企業が寄附を通じて地方創生を推進するとともに、自治体のさまざまな課題解決を支援できるよう開設するものです。JFAは①ウォーキングフットボールの推進、②学校部活動の地域展開支援、③防災活動の取り組みの3プログラムを推奨しており、これらを通じて自治体・企業・サッカーが連携した持続可能な地域づくりを目指したいと考えています。※1/30発表

## JFA審判委員会に「ディベロップメントグループ」を新設。マイク・ライリー氏と審判育成ダイレクター契約を締結

JFA審判委員会は、2026年の新規事業として「ディベロップメントグループ」を設置しました。この組織は、若手審判員の発掘およびその強化に注力し、より質の高

いJ1主審を継続的に輩出することを目的としたもので、ERDP(Elite Referee Development Panel)とTID(Talent ID=全国におけるスカウティング活動)の2つの事業から成ります。

また、JFAは、PGMOL(Professional Game Match Officials Limited\*)の元マネージングダイレクターであり、現在アイルランドサッカー協会審判コンサルタントや国際サッカー評議会のテクニカルパネルメンバーなどを務めるマイク・ライリー氏(イングランド)と審判育成ダイレクター契約を締結しました。契約期間は2026年1月1日から12月31日までで、同氏にはディベロップメントグループが管轄する全事業を統括していただきます。※2/5発表

\*イングランドにおけるプロ審判を統括する組織

## JFA×ニチバン「バトルウィンTMケガ予防クリニック in静岡」を開催

JFAは、JFAソーシャルバリューパートナーであるニチバン株式会社との価値共創事業「バトルウィンTMケガ予防クリニック」を2月20日に静岡県藤枝市で開催します。本クリニックは、JFAとニチバンが競技レベルを問わずサッカーを安心・安全にプレーできる環境づくりを日本全国に波及させる目的で実施しているもので、ニチバンの講師によるテーピング講習のほか、元プロサッカー選手によるサッカーやケガとの向き合い方に関する講義を行います。今回は、藤枝市出身の名波浩さんが静岡県立藤枝北高校サッカー部を訪問し、トークセッションやトレーニングセッションに参加します。※2/10発表

## 2026年サッカーe日本代表の選抜方法を発表

JFAは、FIFAe World Cup 2026™に向け、株式会社コナミデジタルエンタテインメントの「eFootball™」内で開催されるイベント「Challenger Series」においてサッカーe日本代表選手を選抜します。2026年サッカーe日本代表は、コンソール部門4名、モバイル部門4名の計8名を予定しています。※2/12発表



3月8日は「JFA女子サッカーデー」。

JFAは毎年、3月を女子サッカーの推進月間とし、「世界でいちばんフェアな国になろう」をスローガンに、女子サッカーの普及や女性活躍社会の推進に向けたさまざまな活動を行っています。今年も、47都道府県サッカー協会や関連団体、サッカー以外の競技団体やパートナー企業と手を携え、幅広い取り組みを展開します。



## その他の主なニュース

- ・【JFAこころのプロジェクト】「ZOJIRUSHI ユメセンサーキット2026」来年度の開催校を大募集 (2/2発表)
- ・「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」 オリンピック・リヨン(フランス)へ4選手が短期留学 (2/12発表)

WEリーグ理事/なでしこリーグ理事長

海堀あゆみさんを

マンマーク!



動画公開中!

第19回はFIFA女子ワールドカップドイツ2011の優勝メンバーであり、なでしこジャパン(日本女子代表)の守護神として53キャップを誇る海堀あゆみさんがゲスト。現在はWEリーグ理事、なでしこリーグ理事長として活躍されています。

## 女子サッカーの未来と可能性 いつか男女アベック優勝を

**宮本** 今振り返っても2011年のワールドカップ優勝は本当にすごいことです。

**海堀** 年々、その重みを感じています。今このように女子サッカーに携わる立場となりましたが、やっぱりつないでいかないといけない。一度優勝するだけでなく、何度も成し遂げることによって価値が深まっていくはずですから。

**宮本** 優勝する前の女子サッカー界は、まだまだ厳しい環境にあったと思います。

**海堀** 私が一時やっていたテニスから再びサッカーに戻ってスペランツァF.C.高槻(現、スペランツァ大阪)に復帰したころは、アウェイの遠征費も自分たちで負担していましたし、夜行バスで試合会場に向かって3、4時間ほど公民館みたいなところで仮眠してから試合をしたこともありました。

**宮本** その状況でも続けられたというのは、どのようなモチベーションがあったから?

**海堀** モチベーションというよりも、そういった環境が当たり前だと思っていましたね。トップチームに上がってから年齢が下だったので、新幹線でもチームの荷物と自分の荷物、両方を持って移動していました。

**宮本** なでしこジャパンが優勝して、サッカーの現場も少しずつ変わっていった、と。

**海堀** すごく変わりました。サッカーと仕事を両立しなければならない環境でしたが、練習時間を配慮してくれるようになったり、私の場合は待遇面も良くなったり、あとは「見られ方」が180度変わりました。サッカー選手としての振る舞い方を気にするようにもなりました。

**宮本** 自分も2002年のFIFAワールドカップのときを振り返ると、大会が終わってJリーグが再開すると、初めてのお客さんが増えていました。見られていることに対してちゃんとパフォーマンスをしないとイケないというプロとしての責任を一層感じたことを覚えています。

**海堀** 分かります。優勝直後、INAC神戸のなでしこリーグの試合で2万人を超えるお客さんが集まり、応援される中でプレーする喜びというのを感じました。

**宮本** 海堀さんは現役引退後、慶應義塾大学の湘南藤沢キャンパス(SFC)に進学されました。

**海堀** 大学に行くことなんて全く考えていませんでしたが、姉やお世話になった方々の助言もありまして。卒業生の方と会う機会があって、みんなすごく輝いていたんです。自分も次のキャリアに活かせるヒントがここにあるなと感じたのがきっかけですね。(FIFAマスターに進学した)ツネさんはどうでしたか。

**宮本** サッカー選手としてサッカーを理解してきたつもりでも、違う視点でも見ていくことが大事だなと思っていたときにFIFAマスターの存在を知りました。実際、入ってみているんな学びがあったし、自分の引き出しが増えいく感覚がありましたね。

**海堀** 私もサッカーを俯瞰して眺めることで、「こういう活かし方もあるんだ」とか、(サッカーと)これまで掛け合わせる事のなかった分野からもヒントをもらえるんだと、学ばせてもらっています。実はまだ在学中なんですけど(笑)。

**宮本** そういった学びが今、WEリーグの理事として、なでしこリーグの理事長として活かしている部分、活かしていきたい部分はありますか。

**海堀** 視野が広がって、選手だけではない視点を持つことができている。私は関西出身ですが、恵まれていたのか、これまで女子サッカーを続ける環境に困ったことはありませんでした。しかし、仕事などで地方へ行く機会が増えるにつれ、女子サッカーに触れる機会すらほとんどない地域があることを肌で感じるようになりました。U-15のところは女子サッカー全体の課題ですが、そもそもそのエリアに選手が少なく、クラブを立ち上げて人も集まらない。もっと下の世代から積み上げていかなきゃいけないと感じています。

**宮本** (2020年から3年間)佐賀県みやき町のスポーツ政策ディレクターを務めています。地方ならではの課題というものを直に感じてきたと思うのですが。

**海堀** そもそもWEリーグやなでしこリーグを知らない子どもたちが多くて、衝撃を受けました。近くにトップリーグに所属するクラブがないことも一つですが、一方で高校サッカーへの憧れは強く持っているんですね。全日本高校女子サッカー選手権が各都道府県から代表校が出る方式が変わり、普及の観点からこれもチャンスだなんて思っています。

**宮本** 全日本高校女子サッカー選手権を多くの人に知ってもらえて、どうブランディングしていくかというのはJFAでももっとアクションの声を起こさなきゃいけないと思っています。その意味でも海堀さんのような現場の声をもっと集めたい。

**海堀** 大学との連携に可能性を感じています。関東に強豪校が集中していますが、地方にも女子サッカー部が増え、それらが強くなることで可能性が広がると思います。なでしこリーグは全国に24クラブありますし、続ける環境をどうつくっていくかというのは皆さんと議論していく必要があると思っています。また少子化の中、若年層ではほかの競技と手を取り合ってやることも一つだと考えます。

**宮本** なでしこリーグがWEリーグとは違う立ち位置で地域に根差して活動していけば、明るい話題も提供できるし、地域にとって元気の源になってくれるんじゃないかな。グイアテラス宮崎の選手たちと会ったとき、みんな笑顔で素敵になって思いましたよ。

**海堀** そうですね。女子サッカー選手ならではの明るさだったり、コミュニケーション力であったり、サッカー教室一つとってもみんな全力でやってくれますから。

**宮本** ワールドカップ優勝を経験した一人として次世代に伝えたいこと、またこれからどんな夢を描いているかを教えてください。

**海堀** 明るく、サッカーが大好きで心からサッカーを楽しむ姿勢は、自然と周囲に笑顔を広げる。そんな“なでしこらしさ”はこれからも受け継いでいってほしいですね。夢は、男女のアベック優勝です。一緒に優勝パレードしているような未来を想像するだけでワクワクしちゃいます。

**宮本** それは夢があるね。女子のサッカーの未来を、日本サッカーの未来を明るくしていきますよ。

海堀あゆみ(かいほり・あゆみ)

1986(昭和61)年9月4日生まれ。京都府長岡京市出身。京都府立乙訓高校を卒業後、スペランツァ高槻でプレー。2008年にINAC神戸レオネッサに加入し、なでしこジャパンに初選出。2011年には、FIFA女子ワールドカップドイツで初優勝を飾り、決勝戦のMVP・大会優秀選手に選出された。2015年に引退するまで、国内リーグ200試合以上、国際Aマッチ53試合に出場。現在はWEリーグ理事、なでしこリーグ理事長を務める。

※次号は2026年4月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

